豊かな湿地を次世代へ引き継ぐために

化女沼（けじょぬま）湿地保全活用計画を策定しました

市では、ラムサール条約湿地の化女沼を大崎の宝として次世代に引き継ぐために「化女沼湿地保全活用計画」を策定しました。策定にあたっては地域の代表をはじめ専門家、関係団体などが意見を出し合いました。計画は、平成二十四年度から二十八年度までの五年間で、今後は化女沼とその周辺の保全と活用の両立に向けた取り組みを進めていきます。

問 産業政策課自然共生推進係 ☎㉓2281

8月には化女沼一面にハスの花が開花します。この化女沼の保全、活用を目指して、さまざまな取り組みが必要となります。

湿地保全活用計画の実施方針と取り組み

保全・復元

■希少植物の保全・再生区域と、自然体験、交流などの普及啓発区域を明確にします。

■湿地の保全、管理の手法を確立します。

広報・教育・参加・普及啓発

■ラムサール・トライアングル（化女沼、蕪栗沼・周辺水田、伊豆沼・内沼の三つの湿地をつなぐ渡り鳥の重要な飛来する地域）を構成する関係団体との情報発信と交流の場をつくります。

■次世代を担う子どもたちへ環境教育として、教材開発および環境教育区域を創設します。

■貴重植物の復元に向けた「植物里親プロジェクト（仮称）」を実施します。

■渡り鳥の取り持つネットワークを活用した国内外への情報発信と湿地間交流を実施します。

生態系に配慮し地域経済と連動した賢明な利用（ワイズユース）

農業

■地域の特性や生物多様性に配慮した栽培形態の検証と実施を進めます。

■化女沼ブランド（統一ブランド）の創出に向け検討と試行を行います。

■ラムサール・トライアングルを活用した農産物の販売システムの検討と試行調査を行います。

■周辺水田のラムサール条約湿地への追加登録に向けた地域との合意形成を図ります。

観光

■交通アクセスの良さと化女沼ダム観光資料館などの既存施設を生かし、ラムサール・トライアングルの観光の玄関口として機能を発揮できる仕組みをつくります。

■地域推進主体と現地ガイドを育成します。

■自然と触れ合うためのルールをつくります。

■みやぎ大崎観光公社と連携し、着地型旅行商品の開発を行います。

ラムサール条約湿地に登録された化女沼は、ヒシクイやシジュウカラガンといった希少なガンの仲間が飛来する国際的に貴重な環境が残されています。特にマガンやヒシクイの飛び立ちや、ねぐら入りする光景は壮観で訪れた人々を魅了しています。

一方、近年外来魚であるブラックバス（オオクチバス）やブルーギルが繁殖し、古くから化女沼に生息していたタナゴやフナなどの在来魚が姿を消しています。

また、冬期間にブラックバスなどの釣りを目的にした人が沼へ入ることにより渡り鳥のねぐら利用に影響を及ぼしているとの調査結果もあり、外来魚の駆除を含めた早急な対策が必要となっています。

農業では、一部で環境に配慮した農業が行われていますが、ラムサール条約や渡り鳥などを活用した農産物の価値を高める取り組みと仕組みづくりが課題となっています。

こうした状況のもと、化女沼と周辺の動植物を保全しながら、農業、観光、教育などの各分野で活用する賢明な利用（ワイズユース）により、地域の活性化と担い手である子どもたちの育成を目指すため、総合的かつ計画的に取り組んでいきます。

計画策定委員　菅井 譽一（よいち） さん
（宮沢地区振興協議会）

今回の計画で一番力を入れたところは、昔のように子どもたちが化女沼での遊びを通し、動植物について学習できる環境を整備することです。

化女沼は水田にとってはかんがい用ため池としての役割がありましたが、水管理は大変でしたがダムが建設され水管理は楽になりました。しかし化女沼のようすが一変しブラックバスなどの外来魚が繁殖するようになり、コイやフナなどの在来魚や植物が減り、自然が破壊されたことを痛感しました。

化女沼に生かされ、育てられてきた地域住民として、外来魚の駆除や希少植物の移植などの活動を通して、子どもたちが誇れる沼になるよう取り組んでいきたいです。

▲大崎市化女沼ダム観光資料館

化女沼にまつわる伝説、ダムやラムサール条約に関する資料などを展示しています。湿地保全に向けた普及啓発や観光などの拠点施設として位置づけられています。

住所　古川小野字遠沢 2-2
開館時間　8:30 ～ 17:30
休館日　月曜日（休日の場合は翌日、年末年始）
料金　無料
問い合わせ　☎ 28-1353